

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200248		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム 今宿		
所在地	〒819-0161 福岡県福岡市西区今宿東1丁目30番52号 Tel 092-806-2239		
自己評価作成日	令和03年10月08日	評価結果確定日	令和03年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者がしたい事、出来ることを一緒に探し、入居者のペースで生活しながら実現する。 ・関連病院、様々な関連施設があり、状態の変化に合わせて継続した支援ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和03年12月03日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「今宿」は、学研都市今宿の閑静な住宅地の一角に2017年4月に開設された定員18名のグループホームである。「地域の中で私らしく」を理念の柱とし、近隣の保育園や教会との交流やホーム2階の地域交流スペースの開放、災害時の地域の要支援者の受け入れ等、地域との繋がりを大切にしている。(現在はコロナ対策の為自粛中)ホーム菜園で取れた季節の野菜を使い、利用者到手伝してもらいながら一緒に作る美味しい料理、週3回の入浴、毎日の体操や畑仕事、書道クラブ、カラオケ等、日々の暮らしの活性化によって、利用者の要介護度は改善している。経験豊富でスキルの高い職員が定着し、馴染みの関係の中で、利用者のしたいこと、できる事を一緒に探し、一人ひとりのペースを大切にしながら暮らしを実現している。ブログや「グループホーム今宿便り」で利用者の笑顔を伝えることで家族の安心に繋げ、深い信頼関係が築かれているグループホーム「今宿」である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、フロアに掲示し、いつでも確認ができるようにしている。	「地域の中で私らしく」を理念の柱とし、玄関のタイムカードの横や各ユニットに掲示し、職員は日常的に目にすることで理念を共有している。地域を意識した取り組みはコロナ禍の中で自粛しているが、利用者一人ひとりのしたい事、できる事を一緒に探し、その人らしい暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	理念に基づいたユニット毎の年間目標(月間目標)や個人の目標を立てる等して、より理念を意識した具体的な取り組みに繋げていく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の教会や保育園や地域校区の事業所ネットワーク会議に参加し、交流を図っている。今年度もコロナ感染予防の為交流の機会は減っているが、開催時には参加している。	コロナウイルス感染症対策以前は、近くの教会や保育園との交流も始まり、地域代表から情報提供を受けて行事や活動に参加していたが、現在は自粛している。近隣の散歩時に挨拶を交わしたり、ホームで取れた西瓜を保育園に届ける等、今できる交流を継続して行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流室の貸し出しを行っている。また、事業所ネットワークのパンフレットにも掲載しており案内している。今年度はコロナ感染予防にて貸し出しはない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、開催は出来ていないが、活動内容を報告し関係者の方に意見を頂いている。また介護ネットワーク西部内での合同の運営推進会議を、年一回開催し、各施設間で意見交換を行っている。今年度の合同運営推進会議は中止。	コロナ対策のため、書面でホームの運営や取り組み、利用者状況、事故・ヒヤリハット等の報告を行い、委員から意見を返信してもらっている。介護ネットワーク西部内の事業所が参加する合同運営推進会議を年1回開催し、地域のために何ができるのかを話し合う機会を設けている。(今年は中止)	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	9月に開催している合同運営推進会議にて市町村の担当者との情報交換を行っているが今年度は中止したため、必要時は電話やメールで情報交換をしている。	介護事業所ネットワーク会議に参加して、市町村担当者と情報交換し、協力関係を築いている。運営推進会議は書面でのやり取りを行い、地域包括支援センター職員と連携している。また、事故や困難事例があれば行政窓口相談して情報交換し、連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置したり、内部研修を行うなどし、身体拘束をしないケアを目指すように取り組んでいる。コールマットを使用しているが、必要最小限での使用を心掛けている。	身体拘束の職員研修を、内部研修や職員会議の中で年2回以上実施し、職員間の共通理解に努めている。身体拘束検討委員会を設置し、毎月の職員会議の中で身体拘束について報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の内部研修を行い、伝達しえいる。各スタッフ間でお互い注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在までのところ、成年後見人制度を利用している方はいないが、今後のことを考え、内部研修を行い学んでいる。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、内部研修の中で制度について学ぶ機会を設け、理解を深めている。制度が必要な場合には、申請機関に相談しながら、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書にて、入居者や家族に説明し、十分に理解と納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時に意見や提案などを聞き、反映できるように努めている。	日々共に過ごす中で、職員は利用者の意見や要望を聴き取っている。現在はコロナ禍で家族面会が制限されているが、電話で家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営に反映させている。季節毎に「グループホーム今宿便り」を発行し、毎月ブログを更新して利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で意見、提案を聞き、月1度の会議をの中で、スタッフと共に決定している。	毎月17時半から職員全体会議を開催し、その後ユニット毎に分かれてフロア会議を開催している。カンファレンスを兼ねた職員会議では、話し易い雰囲気の中で職員の意見や提案が活発に出されている。事前に議題が提示され、職員の意見を表せる環境を整え、出された意見や要望は出来るだけホーム運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境作りに努力している。個々のスキルアップのための研修案内などを行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別、年齢だけで判断せず、人柄、意欲等を考慮し採用している。定年再雇用制度を取り入れており、社会参加や自己実現の権利は保障するように努めている。	有資格者(介護福祉士)の職員が多く、経験豊富なベテラン職員が互いの経験を活かし合い、スキルの高いチーム介護に取り組んでいる。職員の処遇改善に取り組み、定年再雇用制度や充実した休みが取れる勤務体制に取り組み、リフレッシュしながら働きやすい環境の中で職員は定着している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権、その人らしさを考える場を研修や会議、普段のケアを通して話し、当たり前を意識ができるよう努めている。	利用者の人権を守る介護の在り方について、職員会議や研修の中で学ぶ機会を設け、言葉遣いや対応の仕方に注意して、利用者が安心してホームで暮らすことが出来るよう支援している。また、職員は常に理念を意識して、利用者一人ひとりの「私らしく」を大切に介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促し、資格の取得をバックアップしている。また、内部研修ではテーマに沿って、各職員が研修内容を作り、発表、研修を構成することで、各自のスキルアップに繋がるようにしている。(コロナウイルス感染予防の為、外部研修は控えている)		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	校区の事業所ネットワークに参加し、各事業所と意見交換や交流を図ることで、サービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、入居者からだけでなく家族からも聞き取りを行っている。不安や要望など情報収集し信頼関係が築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族も交えて面接し、不安や要望などを聴き取っている。またその際に出た要望はケアプランに反映し、ケアに反映されるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの得た情報から分析をし、意向なども踏まえ、本人にとって最適なサービスが受けられるよう見極められるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や制作を共に行い、入居者の方との関わりを大切にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時、または電話にて近況の報告を行い、現在の状況を把握して頂いている。何かあればご家族と相談し解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の情報収集から、今まで付き合いのあった方と今後も関係性を維持できるよう、家族に協力をお願いしたり、友人と電話や手紙のやり取りなど促している。	コロナ対策以前は、利用者の行きたい所や会いたい人等を聴き取り、家族と協力しながら思いの実現に取り組んできた。面会や正月の帰省についても今年度は出来なかったが、「グループホーム今宿便り」の発行やブログの更新、電話のやり取りを密に行い、家族の安心に繋げている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の過ごしたいように各自の観察を行っている。レクリエーションや行事の際は声かけを行うことで強制はせず、参加して頂いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時に契約終了後でも何かあれば相談に乗ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を家族の方より伺い、本氏との会話などから希望を聞き取り支援に努めている。	意思を伝える事が出来る利用者が多いので、職員は利用者の言葉を聞き逃さないよう注意して、職員間で情報を共有し、介護サービスに反映させている。食事でも利用者のペースで食べてもらい、日中の過ごし方も、利用者一人ひとりの希望を尊重しながら、自由に過ごしてもらっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏家族からの聞き取り、情報を頂きこれまでの暮らし委の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や介護記録、ケアプラン等により、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞いたうえで、カンファレンスを行い現状に応じた介護計画の作成に努めている。	利用者の希望を聴き取り、家族の意見や要望は事前に電話で聴いてカンファレンスを開催し、職員からの意見を集約して、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の重度化や状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やモニタリングを通して情報の共有、介護計画の見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があった際には、ニーズに合った支援、サービスを提供できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の薬局や飲食店、図書館を利用して地域の資源を活用しながら、潤いのある生活が送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前までのかかりつけ医との繋がりを最優先にしつつ、連携病院があることも案内し、契約時に本人、家族に選択して頂いている。 また各入居者の現在の情報を提供し、適切な医療を受けられるように支援している。	契約時に、利用者や家族の希望を優先して主治医を決定している。受診については家族対応でお願いしているが、緊急時はホームで対応し、母体医療機関と連携しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師の出勤時には、入居者の状態、変化などを伝え、受診の必要性など相談している。また、連携病院の看護師とは、入居者に異変があった際に電話で相談し、医師との連携に協力してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と連携を図り情報交換を行っている。病院とも相談し適切な時期に退院できるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う対応を十分に説明し、同意を得ている。現在はターミナルケアは行っていないが、出来る限りホームで生活していただけるよう支援している。重度化した際は、病院や連携施設と相談しながら、入院や転居などの支援をしている。	重要事項説明書を基に、ターミナルケアの方針について利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の状態変化や重度化に合わせて家族と密に話し合い、主治医に相談しながら、病院への入院、連携施設への転居も視野に入れ、出来る限りホームで過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が発生した際の対応をマニュアル化し、内容の周知、徹底に努めている。また、内部研修などでもシュミレーションをしながら勉強し、対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間想定それぞれで火災時の避難訓練を開催している。災害対策のマニュアルを作成しており、確認し、災害時に避難できるようにしている。また、運営推進会議にて地域への協力をお願いしている。	年2回設備業者の協力を得て、日中・夜間想定避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路を確認している。非常時に備えて食材(3日分)を備蓄し、自家発電機の用意もある。災害時、地域の要支援者5名(保護者同伴)程度の受け入れが可能であることを自治会会長に伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの生きてきた環境、人格、性格をきちんと把握し、尊重されていると本人が思えるような接し方を心掛けている。	利用者一人ひとりを尊重する介護サービスについて職員は常に意識して、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるよう支援している。入浴や排泄時には、利用者の羞恥心やプライドに配慮した声掛けや対応を行い、同性介助の希望があればその都度職員を変えて対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなっている入居者に対しても、その方のレベルに合わせ、選択しやすいような聞き方や環境作りをし、自己決定し続けられるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のその日その時の希望にそって、無理強ひすることなく支援やケアを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿えりように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのできることを把握し、下ごしらえ、味付け、味見、片付けなど日常的に参加して頂いている。	管理栄養士による献立を活用し、菜園で取れた新鮮な野菜を使って、利用者と職員と一緒に作る美味しい料理を提供している。おやつ作りに挑戦したり、誕生日には食べたい物(ステーキ等)を聞いて提供する等、食を楽しむ支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を参考にメニューを決めている。食事はチェック表に記録し、摂取状況の確認をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけ、必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔に努めている。歯科の往診を受けている方もおり、必要に応じて歯科医師からアドバイスをもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況はチェック表を活用しながら確認、把握に努めている。およそ3時間おきにトイレの声かけを行うなどし、自立にむけた支援に繋げている。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、重度化しても職員2人体制で介助し、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間も自分でトイレに行く利用者が多く、見守りや誘導、パットの交換等、利用者の希望や状態に合わせて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に繊維質の食べ物や乳製品など取り入れるようにしたり、体操や散歩で運動を促している。便秘がちな方には、オリゴ糖を摂取してもらったり、腹部のマッサージなども行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	習慣になるように入浴日、時間帯は決めているが、必要に応じて、入浴できるような体制は整えている。	利用者の希望や体調に配慮しながら入浴支援に取り組み、基本的には週3回入っているが、毎日の入浴も可能である。柚子湯や香りの良い入浴剤を使用して、入浴を楽しめるよう工夫している。入浴は利用者職員がゆっくり会話できる楽しい時間と捉え、何でも話し合える関係が築かれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中はできるだけ起きて過ごせるよう関わりを持つようにしている。また、入居者それぞれの体力など考慮し、休息をそったいただき、無理なく過ごせるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は、薬情などで確認を行うように申し送りなどで確認している。また、いつでも確認ができるようにカーデックスに同じ、副作用が疑われるときは看護師に相談するなどし、症状の変化に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品については、内服や家族の意向などがありだせてはいない。 歌や散歩など各入居者の楽しみごとや気分転換などの支援は行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、外食は行っていないが、散歩やドライブなどは感染予防に努め極力行っている。	コロナ対策のため、密になる外出や外食は控えてきたが、コスモス見学や紅葉狩り、菜の花見物等、人混みを避けてドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。天気の良い日は、近隣の散歩に出かけたり、畑の草取り等に精を出す等、利用者が外気に触れられるような支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者数名は少額ではあるが、ご自身で金銭管理をされており、買い物に行った際に買いたいものを選んで、支払いもご自身でできるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が使用方法が分からない時には使い方を教えたり、他の方も希望があれば、家族などにホームの電話を利用してもらうようにしている。 手紙などのやり取りもされている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるよう、テレビやCDなどの音はどちらか一つにしたり、掲示物の内容も配慮している。また、花や植物などをリビングなどに置き、季節感を味わえるようにしている。	ホーム内は清掃が行き届き、音や照明、温度、湿度、換気に注意して、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。各ユニットの壁面には利用者と職員が制作した貼り絵や習字の作品、利用者の笑顔の写真が飾られ、花や植物を置いて季節感も取り入れ、居心地よく過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席やソファの場所を工夫している。リビングの席も気の合う方と近くになるよう配慮し、穏やかに過ごせるよう努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、理由を説明し、新しいものを買うのではなく、使い慣れた家具、置物、写真、その他私物を持ってきてもらうようにしている。	利用者が使い慣れた筆筒やぬいぐるみ、家族の写真等、馴染みの物や大切な物を持ち込んでもらい、利用者が安心して生活できるよう支援に取り組んでいる。また、広い室内は清掃が行き届き、利用者が気持ちよく過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、手すりを設置するなどし、自立した生活が送れるようにしている。		